

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 2002-118807

(43)Date of publication of application : 19.04.2002

(51)Int.Cl.

H04N 5/76
G11B 19/04
G11B 20/10
H04N 5/765
H04N 5/781
H04N 5/93

(21)Application number : 2000-310910

(71)Applicant : AIWA CO LTD

(22)Date of filing : 11.10.2000

(72)Inventor : ENDO FUMITAKA
AYUSAWA KEIICHI

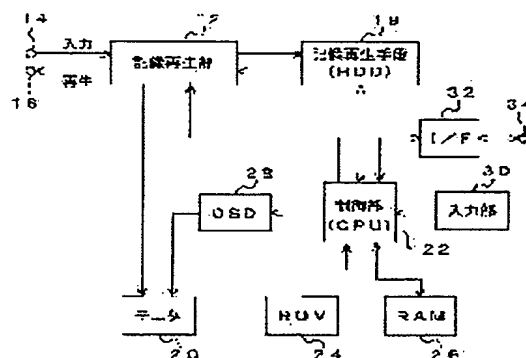
(54) RECORDING AND REPRODUCING METHOD, AND RECORDING AND REPRODUCING DEVICE

(57)Abstract:

PROBLEM TO BE SOLVED: To record identification information with which only specific video recording objects can be reproduced at video recording.

SOLUTION: The recording and reproducing device is provided with a recording and reproducing section 12, a recording means 18, a control section 22 that controls the operating state of the recording and reproducing section and the recording means, and a memory means 26 that is provided in relation to the control section and stores the identification information. The control section collates the identification information with the identification information stored in the memory means and controls a reproduction mode of the recording and reproducing section and the recording means on the basis of the result of collation. When a user would like to personally enjoy an object to be video-recorded in a stage prior to video recording, the user enters the personal identification information. When the user reproduces the video recording object, the user enters the identification information. Then the entered identification information is collated with the identification information having already been registered and when the result of collation indicates coincidence, the recording and reproducing device transits to the reproduction mode and reproduces the video recording object. When the identification information items are dissident, the user cannot reproduce at least the video recording object. Thus, even when a recording medium is used in common, the user can build up a personal video recording library.

記録再生装置 10



LEGAL STATUS

[Date of request for examination]

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

[Kind of final disposal of application other than the
examiner's decision of rejection or application
converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

[Date of registration]

[Number of appeal against examiner's decision of

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開2002-118807

(P2002-118807A)

(43) 公開日 平成14年4月19日 (2002.4.19)

(51) Int.Cl. ⁷	識別記号	F I	テーマコード* (参考)
H 0 4 N 5/76		H 0 4 N 5/76	Z 5 C 0 5 2
G 1 1 B 19/04	5 0 1	G 1 1 B 19/04	5 0 1 K 5 C 0 5 3
	20/10		3 2 1 Z 5 D 0 4 4
H 0 4 N 5/765	3 2 1	H 0 4 N 5/781	5 1 0 L
5/781		5/93	Z

審査請求 未請求 請求項の数 4 O L (全 6 頁) 最終頁に続く

(21) 出願番号 特願2000-310910 (P2000-310910)

(22) 出願日 平成12年10月11日 (2000.10.11)

(71) 出願人 000000491

アイワ株式会社

東京都台東区池之端1丁目2番11号

(72) 発明者 遠藤 文孝

東京都台東区池之端1丁目2番11号 アイワ株式会社内

(72) 発明者 鮎澤 慶一

東京都台東区池之端1丁目2番11号 アイワ株式会社内

(74) 代理人 100090376

弁理士 山口 邦夫 (外1名)

最終頁に続く

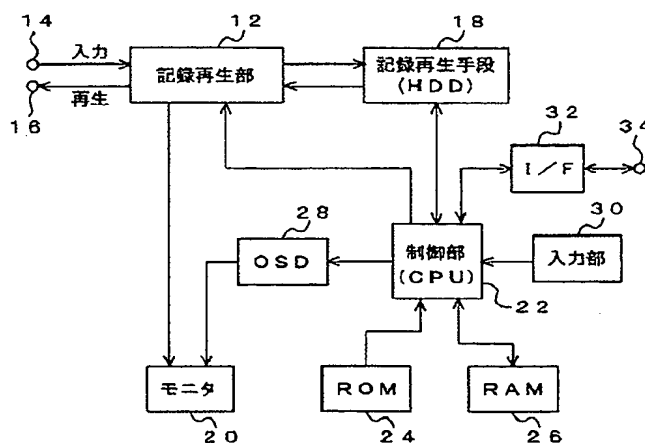
(54) 【発明の名称】 記録再生方法および記録再生装置

(57) 【要約】

【課題】 特定の録画対象のみ再生できる識別情報を録画時に記録できるようにする。

【解決手段】 記録再生部12と、記録手段18と、記録再生部および記録手段の動作状態を制御する制御部22と、この制御部に関連して設けられた識別情報を記憶するメモリ手段26とを有する。制御部には、入力した識別情報とメモリ手段に記憶されている識別情報とを照合し、その照合結果に基づいて、記録再生部および記録手段における再生モードを制御する。録画する前の段階で、その録画すべき対象が個人的に楽しみたいものであるときには、その個人の識別情報を入力する。その録画対象を再生するときには、識別情報を入力する。そうすると入力したこの識別情報と、すでに登録されている識別情報との照合処理が行われ、照合の結果一致したときには再生モードに遷移して、録画対象が再生される。識別情報が一致しないときには、少なくともその録画対象は再生できない。これによって記録媒体が共通に使用される場合であっても、個人的な録画ライブラリーを構築できる。

記録再生装置 10



(2)

特開 2002-118807

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 録画すべき対象に対して識別情報を付した状態で録画してあるときには、再生時、上記識別情報が一致したときのみ、上記録画された対象を再生できるようにしたことを特徴とする記録再生方法。る情報処理方法。

【請求項 2】 上記識別情報は、個人情報であることを特徴とする請求項 1 記載の記録再生方法。

【請求項 3】 記録再生部と、記録手段と、上記記録再生部および記録手段の動作状態を制御する制御部と、この制御部に関連して設けられた識別情報を記憶するメモリ手段とを有し、上記制御部には、入力した識別情報と上記メモリ手段に記憶されている識別情報とを照合し、その照合結果に基づいて、上記記録再生部および記録手段における再生モードを制御するようにしたことを特徴とする記録再生装置。

【請求項 4】 録画すべき対象に対して識別情報を付した状態で録画してあるときには、再生時、上記識別情報の照合結果が一致したときのみ、上記録画された対象を再生できるようにしたことを特徴とする請求項 3 記載の記録再生装置。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】この発明は、記録再生方法および記録再生装置に関する。詳しくは、録画すべき対象に対して、識別情報を付して録画してあるときには、再生時入力した識別情報と一致したときのみ、その対象を再生できるようにして、録画する者に録画対象の再生管理権を付与し、個人的な録画ライブラリーを構築できるようにすると共に、場合によっては好ましくないと思われる録画対象を規制できるようにしたものである。

【0002】

【従来の技術】近年の情報氾濫は、全ての人に対して区別することなく大量の情報を入手できる環境を与えた。しかし、暴力シーンを扱ったビデオや映画などは青少年の健全な精神育成に悪影響を与えるおそれがあることから、現在のテレビ放送では、このようなビデオを放送するときには、テレビ放送信号の中に V チップと呼ばれる判別信号を挿入し、この判別信号を検出したときには、その放送自体もしくは暴力シーンなど限られたシーンを視聴できないような工夫がなされている。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】しかし、この V チップのような判別信号はテレビ放送信号のうちの特定の番組に予め挿入されているものであるから、このような判別信号を受信したテレビ放送信号に対して、個人的に任意に付け加えたりすることは不可能である。

【0004】また、そのテレビ番組を録画して録画した

本人が個人的に楽しみたい場合でも、他人特に子供たちには見せたくないような録画対象も中にはある。一方、特に家庭内で録画装置を共用して使用しているときには、ビデオテープのように録画済みの記録媒体を個人的に所有できる場合は別として、ハードディスクのように録画装置内に装備されている記録媒体であるときには、その記録媒体自体を個人的に管理することは難しい。

【0005】そのため、特に内蔵型の記録媒体を有する録画装置を共用して使用するときには、個人的にのみ楽しみたい録画対象でも他人によって再生される機会が増える。このように特に内蔵型の記録媒体であっても、録画した対象を個人的に管理できれば、V チップに依らずとも、個人向けの録画ライブラリーを構築でき、有害と思われる対象のみならず、個人的に楽しみたい情報を、その個人が管理できるようになる。

【0006】そこで、この発明はこのような従来の課題を解決したものであって、特に録画するときに識別情報をも併せて記録できるようにして、再生時にはその識別情報が一致したときだけその録画対象を再生できるようにしたものである。これによって、記録媒体を共通に使用する場合でも、有害情報などの氾濫を抑えることができると共に、個人的な録画ライブラリーを構築できることになる。

【0007】

【課題を解決するための手段】上述の課題を解決するため、請求項 1 に記載したこの発明に係る記録再生方法では、録画すべき対象に対して識別情報を付した状態で録画したときには、再生時、上記識別情報が一致したときのみ、上記録画された対象を再生できるようにしたことを特徴とする。

【0008】また請求項 3 に記載したこの発明に係る記録再生装置では、記録再生部と、記録手段と、上記記録再生部および記録手段の動作状態を制御する制御部と、この制御部に関連して設けられた識別情報を記憶するメモリ手段とを有し、上記制御部には、入力した識別情報と上記メモリ手段に記憶されている識別情報とを照合し、その照合結果に基づいて、上記記録再生部および記録手段における再生モードを制御するようにしたことを特徴とする。

【0009】この発明では、例えば録画する前の段階で、その録画すべき対象が個人的に楽しみたいものであるときには、その個人の識別情報を入力する。記録媒体がハードディスクのようなファイル管理が容易な記録媒体であるときには、この識別情報は録画対象のファイルに記録される。同時に、入力した識別情報が始めてであるときには、メモリ手段に登録される。

【0010】その録画対象を再生するときには、識別情報を入力する。そうすると入力したこの識別情報と、すでに登録されている識別情報との照合処理が行われ、照合の結果一致したときには再生モードに移行して、録画

対象が再生される。

【0011】しかし、識別情報が一致しないときには、少なくともその録画対象は再生できない。これによって記録媒体が共通に使用される場合であっても、個人的な録画ライブラリーを構築でき、その結果子供などが識別情報が付されたその録画対象を無断では鑑賞することができなくなるので、青少年の健全な育成にも寄与することになる。

【0012】

【発明の実施の形態】続いて、この発明に係る記録再生方法および記録再生装置の一実施形態を図面を参照して詳細に説明する。実施の形態ではこの記録再生装置を、記録媒体としてハードディスク装置HDDが使用され、このHDDが内蔵されたビデオレコーダに適用した場合である。

【0013】図1はこの発明に係る記録再生装置10の一実施の形態を示す要部の系統図であって、記録再生部12と記録再生手段としてのHDD18を有する。記録再生部12は端子14に供給された入力映像信号をデジタル変換すると共に、例えばMPG2によるデータ圧縮を行う信号処理を行ってからHDD18にファイル化して記録する一連の信号記録処理が行われる。端子14の入力信号がデジタル信号であるときは、そのまま圧縮処理を施して記録する。

【0014】また、このHDD18から再生した録画対象を伸長すると共に、元のアナログ信号に戻して再生信号として端子16に供給する一連の信号再生処理が行われる。再生信号はさらにモニタ20に供給されて、その再生画像が再現される。

【0015】HDD18としては、この例では記憶容量100～500ギガバイト（GB）程度の磁気ディスクを使用することができる。このような記憶容量のHDD18を使用するときには、最長300時間、最大1000タイトルの録画が可能である。その場合の記録モードとしては、約200時間の長時間（LP）モード、約100時間の標準（SP）モード、約50時間の高画質（HQ）モードの3つの記録モードを採用することができる。

【0016】記録再生装置10は、CPUを使用した制御部22によってその動作モード（記録再生モード、後述する識別情報の識別処理モードなど）が制御される。制御部22は、記録再生部12を始めとしてHDD18などの動作状態を制御する。そのため、この制御部22には各種動作モードを実行するための制御プログラムを内蔵したメモリ手段（ROM）24を有する他、ワーキングメモリや識別情報を保存するためのメモリ手段（RAM）26が設けられている。

【0017】この発明ではさらにOSD（On Screen Demand）手段28が設けられ、識別情報などを登録したり、識別情報の照合を行ったりするときのメニュー画面

が制御部22の監視下において、モニタ20に表示できるように構成されている。識別情報などの情報は入力部30から入力される。入力部30はキーボード、リモコン、装置本体に設けられた操作パネルなどを利用することができる。

【0018】また、この発明に係る記録再生装置10では、外部と通信できるインタフェース部32が設けられ、外部接続端子34に通信ケーブル（例えば、IEEE1394用通信ケーブル）を接続することによって、外部からの情報を制御部22に取り込むことができ、場合によってはHDD18に記録することができる。したがって、これとは逆の処理も可能で、HDD18より再生した録画対象などをこのIEEE1394用通信インタフェース部32を介して外部機器（記録再生装置、容量の大きなモバイル装置など）に送信できる。

【0019】この発明では記録再生装置10における基本的な動作モード（記録再生など）を処理できるように構成されているのはもちろんのこと、特定の録画対象に対して識別情報を付し、再生時この識別情報を照合して録画対象を規制できるようになされている。

【0020】そのための基本的な動作としては、まず録画時における個人的な識別情報（ID）の登録処理が録画モードに先立って行われる。録画対象に対して個人的な識別情報を付すか否かは任意である。図2はそのときに使用するメニュー画面の一例を示す。

【0021】図2は、特に識別情報（ID）の録画選択メニュー画面SRの一例であって、そのときの録画対象に対して識別情報を付けたいときには、識別情報の登録処理を行う。既に識別情報を登録しているときに、確認欄40をクリックすると、そのID表示欄と、この例では氏名の欄に、既に登録されている情報がそれぞれ表示される。

【0022】これに対して、識別情報を新規に登録するときには、確認欄41をクリックする。このクリックによって識別情報と氏名の入力モードとなり、対応する欄に例えば4桁の数字を入力して識別情報とし、カタカナやひらがなによって氏名を入力する。

【0023】入力が済んでから確認欄42をクリックすることで、入力した識別情報や氏名などがメモリ手段26に登録され、録画メニュー画面への遷移する。この録画メニューは既に知られているのでその説明は割愛するが、HDD18への録画対象の記録と同時に、この録画対象に関連して登録された識別情報と氏名が該当するファイルに記録される。

【0024】なお、録画対象に対して識別情報を付す必要がないときには、同じ録画選択メニュー画面SRの中に設けられた識別情報不要の欄43をクリックすれば、従来と同じように録画対象のみがHDD18に記録されることになる。したがって、その場合には誰もが自由にその録画対象を再生して楽しむことができる。

【0025】したがって、録画時の録画選択の内容によってHDD18に記録されたファイルを見ると、図3のような録画状態となる。この図3において、識別情報を入力しないで録画したとき、つまりIDなしの状態では録画したときには誰でも再生することができるのに対して、識別情報を入力して録画すると（IDあり）、識別情報との照合結果一致した者だけがその録画対象を再生できることになる。

【0026】次に、録画対象を再生する場合にはその初期メニュー画面SPとして図4に示すような画面表示が考えられる。この画面表示ではまず再生しようとする者は識別情報と氏名を入力する。

【0027】識別情報などを入力すると、予め登録されていた識別情報などとの照合処理が行われ、照合が一致したときには例えば、「録画されている全ての番組を再生できます。」などと言ったメッセージ45がフラッシュされ、その状態で確認欄46をクリックすることによって、通常の再生モードに遷移する。したがって再生ファイルメニューで指定されたファイルを再生することができる。

【0028】これに対して、照合の結果、入力した識別情報が既登録の情報と相違したり、全く入力しなかったりしたときには、例えば、「識別情報、氏名が違うため、一部の録画番組は再生できません。」のようなメッセージ47をフラッシュする。これによって、利用者は特別な録画対象の存在を認識すると共に、それでOKならば確認欄46をクリックする。これで識別情報の付されていない録画対象を通常の通り再生できる。

【0029】したがって、記録再生処理を行うための基本的な動作モード実現のためのプログラムの他に、上述したような特定の録画対象に対して識別情報を付し、再生時この識別情報を照合して録画対象を規制するための管理プログラムが、上述したメモリ手段24にはストアされている。

【0030】続いて、その処理を図5および図6を参照して説明する。図5は録画するときの処理であって、録画モードが選択されると（ステップ51）、識別情報による録画選択メニュー画面が表示される（ステップ52）。録画選択メニュー例は図2に示した通りである。

【0031】使用者が識別情報などの必要とする録画対象であると判断したときには（ステップ53）、識別情報などの新規登録かどうかを判別され、新規登録であるときには識別情報および氏名の登録処理が実行される（ステップ54、55）。その後確認欄をクリックすることで（ステップ56）、新規登録処理が行われると共に、通常の録画モードに遷移する（ステップ60）。

【0032】これに対してステップ54で新規登録ではなく、既に登録されているときには既登録情報を利用するかどうかを判別され（ステップ57）、既登録情報を利用するときには、そのまま確認欄をクリックしたかど

うかが判別され、確認欄のクリックがあったときには、通常の録画モードに遷移して識別情報による録画選択処理が終了する（ステップ56、60）。

【0033】次に再生処理について図6を参照して説明する。再生モードが選択されると、図4に示すような再生メニュー画面が表示され（ステップ62）、次に識別情報の入力の有無が確認される（ステップ63）。識別情報の入力があり、さらに入力した識別情報と登録済みの識別情報が一致したときには（ステップ64）、同一の識別情報が付いた録画対象と、識別情報のない録画対象の録画に対して再生が許可される（ステップ65）。

【0034】なお、録画されたファイルの中に、別の識別情報を使用した録画対象が存在するときにはその録画対象は再生することができない。したがって、一致した識別情報が付された録画対象と、識別情報の付されていない録画対象を再生対象として選ぶことができることになる。

【0035】ステップ64において、入力した識別情報が登録されている識別情報を参照しても一致している録画対象が存在しなかったときは、識別情報の入力ミスも含めて識別情報の付されていない録画対象のみを再生できる（ステップ66）。同様に、ステップ63において一定時間経過しても識別情報の入力を確認されないときにも同様な処理が行われ、識別情報のないファイルのみが録画対象となる（ステップ67、66）。このように識別情報を録画ファイルに記録することで、再生できる対象を制限することができる。

【0036】上述した実施の形態では、識別情報の他に、氏名も入力する構成としたが、数字などの識別情報のみで構成することもできる。さらには、識別情報として例えば家族共通の識別情報を設定することもできる。

【0037】また、上述した実施の形態では、録画対象に対する識別情報は、録画時に入力したり、登録したりする例を述べたが、録画終了した段階で識別情報を登録したり、識別情報を付加することもできれば、その録画対象を再生した段階で、その録画対象に対して新たに識別情報を登録したり、付加したりすることもできる。これとは逆に抹消も可能である。

【0038】さらに、上述した実施の形態では、記録媒体を内蔵した記録再生装置10を例示したが、ビデオテープのように着脱式に構成された記録媒体を使用する場合にも、この発明に係る記録再生方法および記録再生装置を適用できることは用意に理解できる。

【0039】

【発明の効果】以上説明したようにこの発明に係る記録再生方法および記録再生装置では、識別情報の付された録画対象を再生するときには、その識別情報が一致したときのみ再生できるようにしたものである。

【0040】これによれば、記録媒体に記録されている録画内容の全てを、共通に再生できるのではなく、少な

くとも識別情報が付された録画対象は、その識別情報が一致したときだけ再生できるようにすることで、記録媒体が共用されていたとしても、個人的な録画ライブラリーを構築できる実益を有する。その結果、個人的に楽しみたい映像を、第三者に再生されないように再生対象を制限できる特徴を有する。

【0041】したがってこの発明はHDDなどの内蔵型記録媒体を備えた記録再生装置などに適用して極めて好適である。

【図面の簡単な説明】

【図1】この発明に係る記録再生装置の実施の形態を示す系統図である。

【図2】識別情報録画選択メニュー画面例を示す図である。

【図3】ファイルリストの図である。

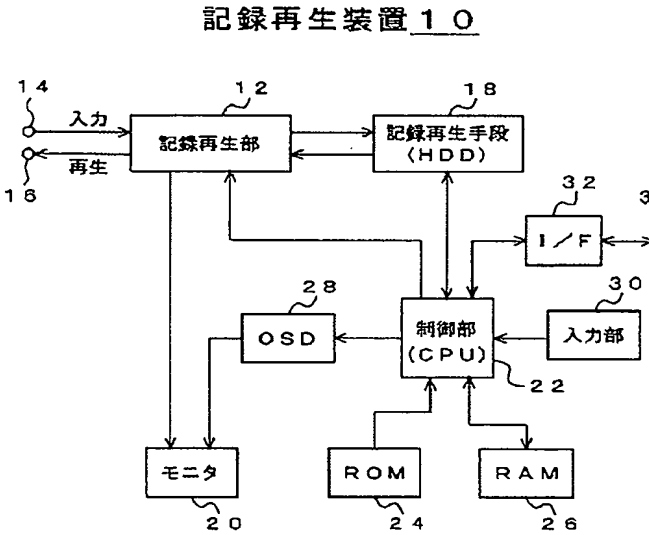
【図4】再生入力メニュー画面例を示す図である。
【図5】この発明に係る識別情報録画処理の実施の形態を示すフローチャートである。

【図6】この発明に係る再生入力処理例を示すフローチャートである。

【符号の説明】

- 10 記録再生装置
- 12 記録再生部
- 18 記録再生手段 (HDD)
- 20 モニタ
- 22 制御部
- 24, 26 メモリ手段
- 28 OSD
- 32 通信用インタフェース部

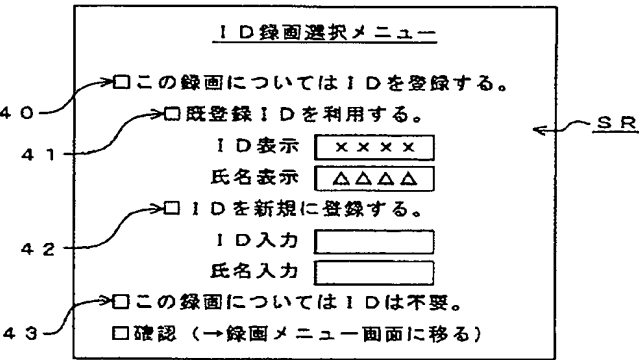
【図1】 【図2】



【図3】

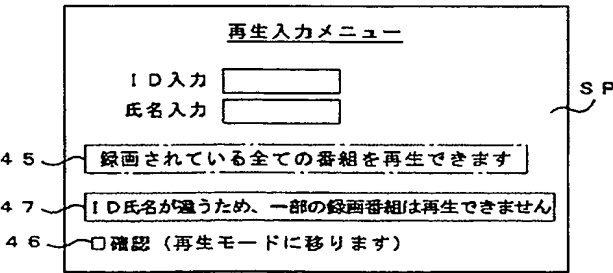
番組名/CH	ID入力	再生条件
××××/1	なし	誰でも再生可
△△△△/4	あり	登録者のみ再生可
△△△△/10	あり	登録者のみ再生可
××××/6	なし	誰でも再生可
...

ID入力画面例



【図4】

再生入力画面例

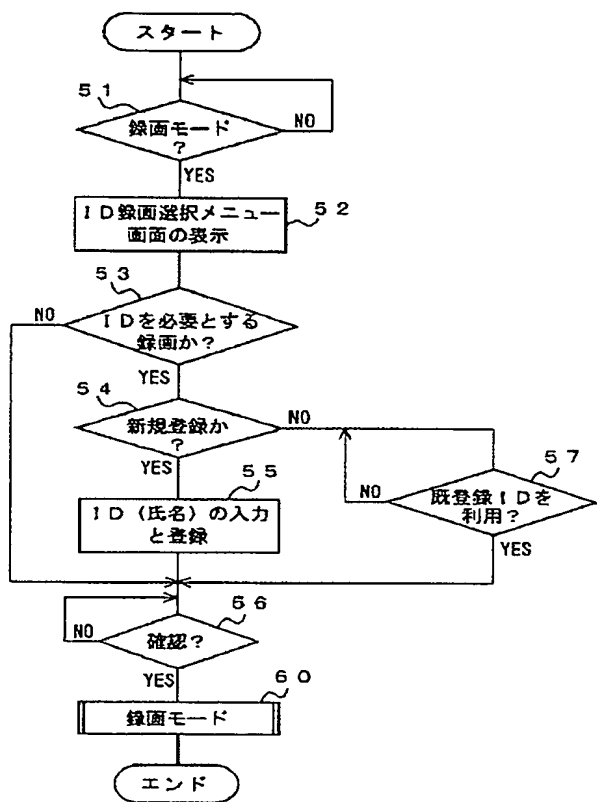


(6)

特開2002-118807

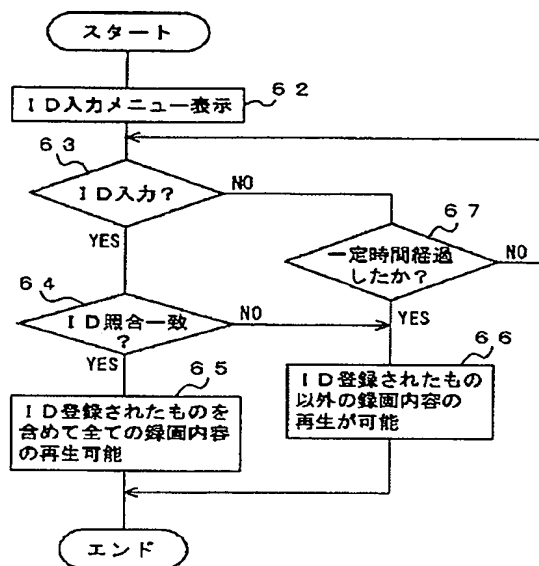
【図5】

1D入力処理例



【図6】

再生処理例



フロントページの続き

(51)Int. Cl.⁷
H 0 4 N 5/93

識別記号

F I

テーマコード(参考)

Fターム(参考) 5C052 AA01 AC01 CC20
5C053 FA14 FA23 FA30 HA40 JA21
KA24
5D044 AB05 AB07 BC08 CC09 DE17
DE49 EF05 FG18 GK12